

## 令和元年度 自己点検・自己評価結果

### 1. 自己点検・自己評価の目的

看護師養成所の責任として教育水準の維持・向上を図るために、教育活動及び学院運営のあり方全体を自己評価する。

### 2. 結果

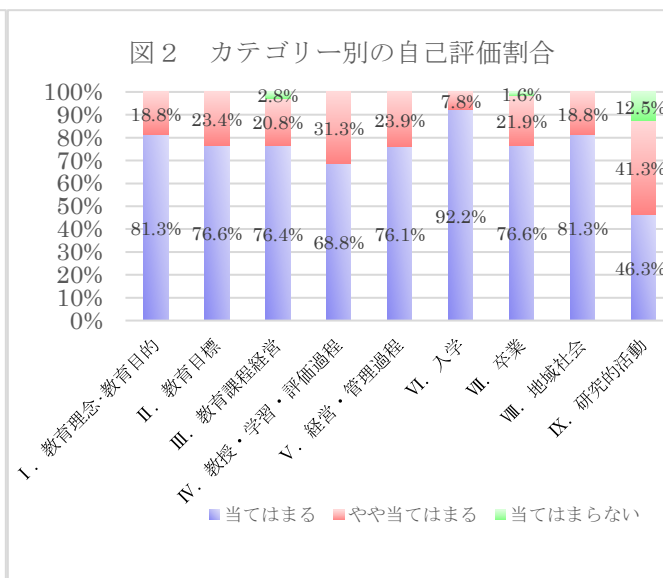
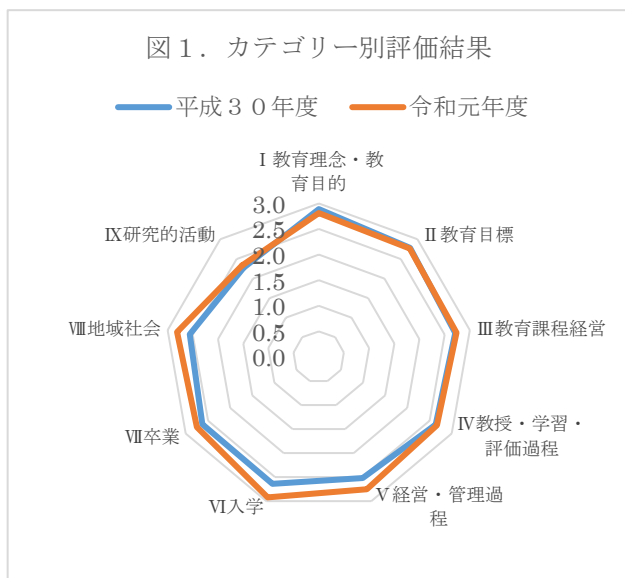
教育活動の9カテゴリー（48項目）に対する教職員の評価を、「当てはまる：3点」「やや当てはまる：2点」「当てはまらない：1点」と点数化して、集計した。9つの全カテゴリー平均点は、2.73点であった（表1）。

カテゴリー別の自己評価割合は、図2に示した。また、9カテゴリー48項目別の平均点は表2に示した。

9カテゴリー別の平均点で前年度より上昇したのは「Ⅲ教育課程経営」、「Ⅳ教授・学習・評価過程」、「Ⅴ経営・管理過程」、「Ⅵ入学」「Ⅶ卒業」「Ⅷ地域社会」「Ⅸ研究的活動」の7カテゴリーで、低下したのは「Ⅰ教育理念・教育目的」「Ⅱ教育目標」の2カテゴリーである。

表1 カテゴリー別平均点

カテゴリー	評価項目の概要	カテゴリー別平均点	
		R 元年度	H30 年度
I 教育理念・教育目的 (4項目)	教育理念・教育目的は学院の教育上の特徴を示し、学修指針の明示。教育内容、教育方法、教育環境を述べ、卒業時の学生像を明示。	2.81	2.89
II 教育目標(4項目)	教育理念・教育目的と教育目標の一貫性、到達目標を示し看護実践能力の育成表現、卒業後の継続教育の考えを示した目標の設定。	2.77	2.78
III 教育課程経営 (9項目)	教育目的・目標に沿った教育課程編成、単位履修方法・単位認定基準、教育課程の評価体系の整備。教員の担当科目と準備時間、実習施設確保、安全教育の体制。	2.74	2.71
IV 教授・学習・評価課程 (4項目)	看護学教育として適切な授業内容か、授業内容に応じた授業形態、目標達成評価とフィードバック、学習の動機づけと支援体制。	2.67	2.64
V 経営・管理過程 (11項目)	設置・管理運営に関し教職員の理解、意思決定システム・役割の明確化、組織決定事項の周知、施設設備、学習継続支援体制、教育活動への関係者の協力支援、中長期・年間計画立案、自己点評価取組み。	2.75	2.52
VI 入学(4項目)	入学者選抜方法の明確化、選抜方法妥当性検討、入学制確保活動。	2.92	2.64
VII 卒業(4項目)	卒業時の目標到達および就業・進学状況分析、就業先での問題分析、卒業生の活動状況把握と分析。	2.75	2.63
VIII 地域社会(3項目)	地域社会貢献、教育活動へのニーズ把握、地域への情報発信。	2.81	2.56
IX 研究的活動(5項目)	自己研鑽・相互研鑽システム整備、研究活動への支援体制、研修成果の教育活動への反映。	2.34	2.28
平均点		2.73	2.63



## 1) 各カテゴリー別評価

### I 教育理念・教育目的

評価項目4項目の平均点は2.81点である。「当てはまる」とした回答が81.3%であり、全体的には教育に対する考え方、看護活動全般に関する指針が示されていると評価している。しかし、「教育内容・方法・教育環境に関する考え」と「卒業時の資質」はともに2.75点とカテゴリー平均点よりやや低い。

「どのような看護師を育てたいのか」、「基礎教育でどこまでめざすのか」を教育活動の中で確認し合い、学生の変化と社会のニーズに対応した看護職の育成のために、『卒業時に身につけさせるべき能力』について明確に明示する必要がある。

### II 教育目標

評価項目4項目の平均は2.77である。「当てはまる」とした回答が76.6%であった。「育成すべき看護実践能力と学習者としての目標設定」は2.94点と高いが、「教育活動の到達目標を示し具体的で実現可能なもの」「教育理念・教育目的の一貫性があり教育内容を網羅」「卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標」という項目はカテゴリー平均点より低い。現行カリキュラム評価においてめざす看護師像と卒業時の資質、教育目標の設定に関する意思統一を図るとともに新カリに向けて再検討していく必要がある。

### III 教育課程経営

評価項目9項目の平均は2.74である。9項目中8項目が平均点以上である。

科目単元構成の妥当性や臨地実習における指導体制と学生への計画的な指導、安全教育・倫理教育など具体的に取り組んできた項目の評価は高い。しかし、「教員の専門性を配慮した担当科目・時間数の配分・準備時間の確保」が2.06と全48項目において二番目に低い。臨地実習指導と学科外教育活動の指導時間の増加により授業準備時間を確保することがさらに困難となっている。学生指導に対する教員間のサポート体制の強化と学生指導以外の業務のスリム化、状況に応じたタイムリーな業務調整が課題である。

### IV 教授・学習・評価過程

評価項目4項目の平均は2.67点であり、「当てはまる」とした回答は68.8%であった。4項目の中で最も低いのは「学習への動機づけと支援」2.63点である。授業の構築と教員間の連携・協力に努力しながら教授活動を実践しているものの、学生の学修力に応じた支援の難しさを感じての結果ではないだろうか。学生たちが自ら学ぶことを目指した教育方法の工夫が求められる。

## V 経営・管理過程

評価項目 11 項目の平均は 2.75 である。計画的に取り組み関係者の協力を得ながら教育運営をしていることは一定の評価が得られているのではないかと。カテゴリー平均点より低い項目は 11 項目中 6 項目で、そのうち最も低いのは「組織構成員の意思の反映や決定事項の周知」の 2.53 点である。前年度より改善が図られた数値結果ではあるが、組織構成員の意思の確認や共有の場をもち、改善の方策をもち実行していく必要がある。併せて、教職員ひとりひとりが経営・管理に参画している意識を高めるためには、経営・管理の見える化をはかることが求められる。そのために、経営・管理に係る課題や決定事項の報告・周知、課題解決に向けた会議の召集などタイムリーな行動が必要である。

## VI 入学

評価項目 4 項目の平均は 2.92 点と 9 カテゴリーで最も高く、「当てはまる」と回答した割合も 92.2% である。入学試験および選抜協議のあり方への理解が得られており、学院見学会を 3 回に増やし、在校生の協力のもと受験生確保のための積極的な活動を高く評価した結果だといえる。受験生の確保対策を推進することと併せて入学後の成績の推移と学習状況の分析、選抜方法の妥当性の評価が今後の課題である。

## VII 卒業

評価項目 4 項目の平均点は 2.75 である。

4 項目のうち高かった項目は、「卒業生の活動状況の把握・調査・分析」と「卒業生の就業・進学状況の分析」であった。低い項目は、「卒業生の就業先での評価の把握や問題点の明確化」、次いで「卒業時の教育目標の到達状況の把握と分析」であった。卒業要件を得て看護師資格を持った卒業生は、概ね多様な分野で専門職業人として活躍している。しかし、その反面、看護職として自己の課題を持ちながら卒業し就業している状況もあるため、就業状況や就業先での評価について把握し、基礎教育へのフィードバックをしていく必要がある。

## VIII 地域社会

評価項目 3 項目の平均は 2.81 であり、「当てはまる」と回答した割合も 81.3% と高い。

地域のボランティア活動要請に積極的に応えており、地域の小中学校への教育活動への協力も今年は広げながら地域貢献に努力している。地域のニーズを把握しながら看護師養成所として積極的な貢献に努力し、あわせて教育活動の地域への情報発信に務める必要がある。

## IX 研究的活動

評価項目 5 項目の平均点は 2.34 とカテゴリー別評価で最も低い。「当てはまる」と回答した割合も 46.3% である。特に「教員の研究活動の保障と助言・検討する体制」が 1.81 点と最も低く、「当てはまらない」と回答している割合も約 18.8% と最も高い。

教員は自己研鑽を行っているが、研究的活動に取り組むには、意識の高揚と組織的な支援体制が求められる。現状においては看護技術や看護過程演習、臨地実習指導などの教材化に関して議論しながら改善点を見出し、検討を積み重ね教授活動に反映させる教育活動を継続していく。研究的活動を保障する環境の整備が課題である。

表2 9 カテゴリー48項目別平均点

カテゴリー	項目	項目別平均点	カテゴリー別平均点
I. 教育理念・教育目的	1. 看護学院の教育上の特徴を示し、法との整合性がある。	2.94	2.81
	2. 学生の学修の指針となるよう明示し、指針となっている。	2.81	
	3. 看護師の質確保のための教育内容、教育方法、教育環境を述べている。	2.75	
	4. 卒業時の資質を明示し社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	2.75	
2II. 教育目標	5. 教育理念・教育目的と一貫性があり、教育内容を網羅している。	2.75	2.77
	6. 教育活動の到達目標を示し、具体的で表現可能なもの。	2.63	
	7. 育成すべき看護実践能力と、学習者として目標を設定。	2.94	
	8. 卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標である。	2.75	
III. 教育課程経営	9. 明確な根拠をもって教育課程を編成している。	2.75	2.74
	10. 明確な考え方と根拠で科目・単元を構成し、教育目的・目標に対して妥当である。	2.88	
	11. 科目配列、履修方法、単位履修の方法と制約をわかりやすく示している。	2.75	
	12. 単位認定の基準・方法は妥当である。	2.88	
	13. 教育課程を評価する体系を整えている。	2.75	
	14. 教員の専門性を配慮した担当科目・時間数を配分し授業準備時間をとれる体制を整備。	2.06	
	15. 臨地実習施設を確保し、指導体制がとれている。	2.88	
IV. 教授・学習・評価過程	16. 対象者の権利尊重の考え方に基づき学生指導を計画的に行っている。	2.81	2.67
	17. 安全教育、安全対策を計画的に行い、発生事故の把握と分析をしている。	2.87	
	18. 授業内容は科目目標と看護学の教育内容として妥当、科目間の整合性、発展性が明確。	2.69	
	19. 授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じ選択し効果的指導体制がとれている。	2.69	
	20. 目標達成の評価とフィードバック	2.69	
	21. 学習への動機づけと支援ができています。	2.63	
V. 経営・管理過程	22. 設置・管理運営に関する管理者の考え方が明示され、教職員は理解している。	2.67	2.75
	23. 組織体制は教育目的達成のために意思決定システムや権限、役割機能が明確である。	2.67	
	24. 組織構成員の意思の反映や決定事項の周知がされている。	2.53	
	25. 教職員任用の考え方と資質向上対策の考え方は、教育理念・教育目的と整合性がある。	2.73	
	26. 教職員は、どのような財政基盤で成り立っているかを理解。	2.73	
	27. 必要な施設設備及び備品を計画的に整備し、状況に合わせて整備している。	2.80	
	28. 学習継続のための支援体制が整っている。	2.80	
	29. 教育・学習活動に関する関係者の協力支援を得ている。	2.87	
	30. 看護師養成機関として、社会的説明責任を果たしている。	2.80	
	31. 中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	2.93	
	32. 自己点検・自己評価組織があり、課題や改善への取り組みを継続している。	2.73	
VI. 入学	33. 入学者選抜委員会を組織し選抜の考え方を明確にしている。	2.94	2.92
	34. 入学後の成績、学習状況を分析し、選抜方法の妥当性を検討している。	2.81	
	35. 入学試験に関して公平性、公明性を確保し、一貫した対応をしている。	2.94	
	36. 積極的な募集活動を行い、入学者の確保に努めている。	3.00	
VII. 卒業	37. 卒業時の教育目標の到達状況を捉え、分析している。	2.63	2.75
	38. 卒業生の就業・進学状況を分析している。	2.88	
	39. 卒業生の就業先評価を把握、あるいは調査し問題を明確にしている。	2.56	
	40. 卒業生の活動状況を把握、あるいは調査し、分析している。	2.94	
VIII. 地域社会	41. 教育活動をとおして、地域社会への貢献を組織的に行っている。	2.94	2.81
	42. 教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	2.69	
	43. 教育活動について、地域に情報発信しているか	2.81	
IX. 研究的活動	44. 教員が自ら成長できる自己研鑽のシステムを整えている。	2.31	2.34
	45. 教員が相互研鑽できるシステムを整えている。	2.44	
	46. 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)し、助言・検討する体制を整備。	1.81	
	47. 教員は研修目標を明確に持ち、成果を教育活動に反映させている。	2.75	
	48. 研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある。	2.38	
	全体	2.72	2.73